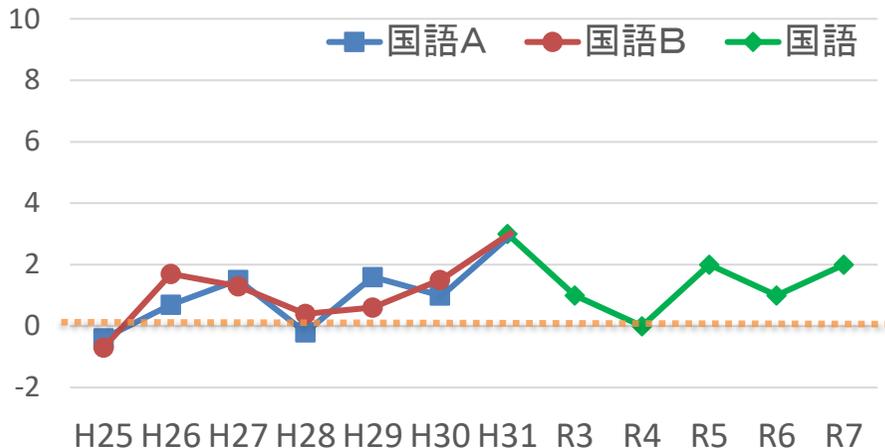


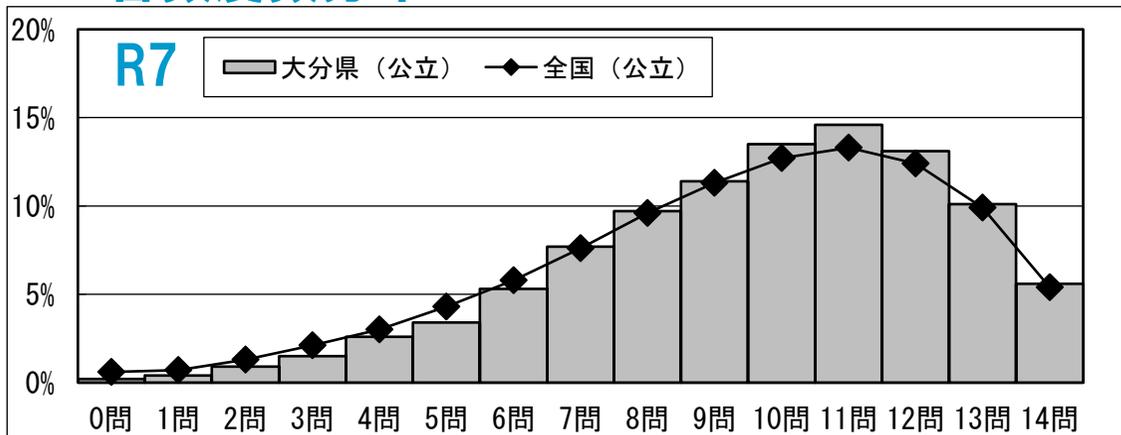
## 結果のポイント

### 1 全国平均との差の経年変化



○全国平均を上回る。

### 4 正答数度数分布



## 2 領域別の結果

学習指導要領の内容	県	全国平均
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	83.8	76.9
(2) 情報の扱い方に関する事項	63.4	63.1
(3) 我が国の言語文化に関する事項	82.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	65.8	66.3
B 書くこと	70.6	69.5
C 読むこと	59.8	57.5

○「知識及び技能」「書くこと」「読むこと」は全国平均を上回る。  
▲「話すこと・聞くこと」は全国平均を下回る。

## 3 観点別の結果

観 点	県	全国平均
知識・技能	78.5	74.5
思考・判断・表現	64.9	63.8

○全ての観点で全国平均を上回る。

○低学力層の児童の割合(正答率20%以下)が全国平均より少ない。  
○正答数が全国平均以上(9問以上)の児童の割合は全国値を上回る。

## □ 課題が見られた問題と指導の改善

### 無解答率が高かった問題

大問3設問三(2) 【平均正答率 大分県62.8% 全国56.3%】  
【無解答率 10.9%】

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題。

#### 【資料1】言葉の変化についての文章

【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由としてまとめて書く。

条件① 納得したことを【資料1】から言葉や文を取り上げて書くこと。

条件② 納得した理由を【資料2】、【資料3】、【資料4】の中から選び、言葉や文を取り上げて書くこと。

### 調査結果から見える児童の実態

#### 【正答】

言葉は年月とともに変化するということになっとくしました。なぜなら、「新しい」という言葉が、奈良時代には「あらたし」と言われていたように、時代とともに言葉の形が変わることがあるからです。

#### 【誤答例】

①言葉の広がりや深さにも、ふれていただきたいということになっとくしました。これからも言葉を大切にしたいと思います。

②資料2の「『ふんいき』ということばを『ふいんき』と言う人が多くなりました」という文になっとくしました。

▲「納得したことをまとめる」という目的を意識したものの、理由となる情報を【資料】の中から見付けることができていない。

▲「納得したことをまとめる」という目的を意識せず、【資料】の情報のみを取り上げている。

### 指導の改善

○ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けるためには、文章の要旨を捉えた上で、図表などが文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしながら、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成することが重要である。また必要な情報は、目的に応じて変わるため、読む目的を明確にすることが大切である。

#### 【学習指導のポイント】

- ☑ 複数の資料を結び付けて読む学習活動を設定する。その際、情報を整理したり、再構成したりして読むための視点を生かし、それぞれの資料にある、語句や情報を丸や四角で囲んだり、線などでつないだりなどして、どの部分と結び付くのかを視覚的に明らかにしながら読むようにする。
- ☑ 他者との対話を通して、児童自身が読む目的に立ち返り、必要な情報を再確認して資料を読み直すよう促す。

#### 情報を整理したり、再構成したりして読むための視点(例)

複数の資料から必要な情報を見付ける際には、それぞれの資料がどのような関係にあるのか明らかにすることが大切である。その際、児童には次のような視点をもたせるとよい。

- 共通の関係⇒筆者の言いたいことは、それぞれ同じだね。
- 相違の関係⇒二つの資料を比べると、筆者の考えが全く違うよ。
- 順序の関係⇒年号に着目すると、Aの資料がBの資料より先の出来事だね。
- 考えと理由や事例の関係  
⇒資料Aのことが、資料Bに具体的に書いてあったよ。
- 全体と中心の関係  
⇒資料Aには、年表Bの出来事の中心的内容が書いてあるよ。
- 原因と結果の関係  
⇒資料Aのようになったのは、資料Bに書いてあったことが原因なんだ。